

xGate Ver.3.5.2PL7/3.7PL4 リリースノート

2010 年 8 月 31 日

株式会社オレンジソフト

1. Ver.3.5.2PL6/3.7PL3 からの更新内容

xGate Ver. 3. 5. 2PL7/3. 7PL4 では下記の変更を行いました。

1.1. 仕様変更/機能追加

以下の機能について仕様変更/機能追加を行いました。

[全体]

➤ 添付ファイル(テキストファイル)の表示

メールにテキストファイルが添付されていたときに、添付されているファイルの内容を確認できるようにしました。

テキストファイルの表示を有効にするには、「オフィス文書表示オプション」を「使用する」にする必要があります。

[携帯]

➤ Yahoo!ケータイでの使用メソッドの変更

Yahoo!ケータイでは、旧端末との互換性のため HTTP 通信において POST メソッドを使用していませんでした。しかし、該当の旧端末のサービスが停止されたので、必要に応じて POST メソッドを用いた通信を行うようにしました。この変更により、メールの送信時などに xGate での設定値より少ないサイズでしか送れないという制限が無くなりました。

1.2. 不具合修正

以下の不具合を修正しました。

[全体]

➤ 添付ファイルの表示ボタンの誤表示

メールに添付されたテキストファイルは表示ができない(表示ボタンが表示されない)仕様でしたが、添付形式により表示ボタンが表示されてしまう不具合がありました。また、このときに表示を実行すると、文字化けしたデータが表示されることがありました。これらの不具合の修正に加え、前述の「添付ファイル(テキストファイル)の表示」の機能を追加しました。

➤ 4 文字以上の TLD (Top Level Domain) へのメール送信不可

送信先のメールアドレスの TLD が 4 文字以上の場合(例:. info ドメイン)にメールを送信することができない不具合に対応しました。

➤ [IMAP] メールボックスに 'く' の文字を含んでいる場合、メールボックス操作に失敗する

一部のメールサーバにおいて、メールボックスに 'く' の文字を含んでいる場合、メールボックスの切り替えや削除などの操作を行うことができない不具合に対応しました。

[携帯]

- EZweb の端末で添付ファイル (PNG 形式の画像) が表示できない
PNG ファイルが添付されていたときに、EZweb 端末で添付ファイルの表示ができなかった不具合を修正しました。
画像の添付ファイルの表示の可否は携帯電話端末の種別/サイズにより制限されています。詳細は、このリリースノートの 9.3 章を参照してください。

[その他]

その他各種の不具合点を修正しました。

2. 動作環境

xGate Ver. 3. 5. 2PL7/3. 7PL4 を動作させるには、下記の環境が必要になります。

2.1. ハードウェア

下記のいずれかのハードウェアが必要になります。

- ・ PC (IA) サーバ
- ・ Sparc サーバ

その他のハードウェアについては、順次検証を行っていきます。

2.2. オペレーティングシステム

下記のいずれかのオペレーティングシステムが必要になります。

- ・ Solaris
- ・ Linux

その他のオペレーティングシステムについては、順次検証を行っていきます。

2.3. Java

下記の JavaVM 環境が必要になります。

xGate 3.5.2PL7

- ・ Java 2 SDK, Standard Edition Version 1.4.X
- ・ 上記の JavaVM の使用にあたっては、暗号強度の問題により Java Cryptography Extension (JCE) のポリシーを変更する必要があります。

<http://java.sun.com/products/jce/index-14.html> の内容を確認して、“Unlimited Strength” Jurisdiction Policy Files の適用を行ってください。

- ・ Java の標準の設定では、DNS のキャッシュ時間が無限となっているために、メールサーバや LDAP サーバの IP アドレスを変更すると接続ができなくなるなどの誤動作が発生しますので、以下のように設定ファイルを修正してください。

- ファイル : [JRE のインストール DIR]/jre/lib/security/java.security
- ファイル内の以下の行を

```
#networkaddress.cache.ttl=-1
```

以下のように修正してください。(‘#’ を取り、-1 を 60 に変更)

```
networkaddress.cache.ttl=60
```

xGate 3.7PL4

- ・ Java SE 6
- ・ 上記の JavaVM の使用にあたっては、暗号強度の問題により Java Cryptography Extension (JCE) のポリシーを変更する必要があります。

<http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp> より、“Unlimited Strength” Jurisdiction Policy Files 6 の適用を行ってください。

- ・ Java の標準の設定では、DNS のキャッシュ時間が無限となっているために、メールサーバや LDAP サーバの IP アドレスを変更すると接続ができなくなるなどの誤動作が発生しますので、以下のように設定ファイルを修正してください。

- ファイル : [JRE のインストール DIR]/jre/lib/security/java.security
- ファイル内の以下の行を

```
#networkaddress.cache.ttl=-1
```

以下のように修正してください。(‘#’ を取り、-1 を 60 に変更)

```
networkaddress.cache.ttl=60
```

その他の JavaVM 環境については、順次検証を行っていきます。

JavaVM の起動時に、最大ヒープサイズを可能な限り大きく、少なくとも 128Mbyte は確保するようにしてください(-Xmx オプション での指定となります)。

2.4. Web サーバ + Java サブレットエンジン

下記の Web サーバ + Java サブレット環境が必要になります。

xGate 3.5.2PL7

- Apache 1.3.X + Tomcat 4.1.X (4.1.31 以後)
- Apache 2.0.X + Tomcat 4.1.X (4.1.31 以後)
- Apache 2.2.X + Tomcat 4.1.X (4.1.31 以後)

xGate 3.7PL4

- Apache 1.3.X + Tomcat 6.X
- Apache 2.0.X + Tomcat 6.X
- Apache 2.2.X + Tomcat 6.X

その他の Web サーバ/Java サブレットエンジンについては、順次検証を行っていきます。

3. xGate の新規インストールと設定

xGate を新規インストールする際、下記の点について注意して行ってください。

3.1. xGate 用の動作環境の準備

「2. 動作環境」にしたがって、xGate の動作環境を準備してください。

3.2. xGate Ver.3.5.2PL7/3.7PL4 パッケージのインストール、設定

「xGate Ver. 3.5.2/3.7 インストールガイド」、「xGate Ver. 3.5/3.7 ConfigSetup ガイド」に従って xGate のインストール、設定を行ってください。

3.3. ファイアウォールの設定

xGate とメールサーバの間にファイアウォールがある場合、ファイアウォールに SMTP、IMAP(または POP)の TCP ポート番号を通すように設定してください。

また、アカウント情報管理のため、LDAP を利用する場合も同様に LDAP のポート番号を通すように設定してください。

3.4. ユーザアカウント情報の登録

「xGate Ver. 3.5.2/3.7 管理者ガイド」に従ってユーザー登録を行ってください。

xGate をご導入頂いた際、ユーザアカウント情報を登録するための管理者ユーザアカウントが予め設定されています。

■ アカウント管理/基本設定のみの場合

ユーザー名:	admin
パスワード:	admin
キーコード:	9999

■ アカウント管理/LDAP オプション機能を利用した場合

ユーザー名: 000000

パスワード: admin

キーコード: 9999

※ xGate のパッケージに含まれている admin.ldif の内容を参考に管理者用エントリをあらかじめ作成してください。admin.ldif は xGate の展開先の WEB-INF/conf/ に含まれています。

■ 環境設定

パスワード: xgate password

4. xGate 旧バージョンからのデータの移行

4.1. xGate Ver.3.4/3.5/3.7 パッケージからのデータの移行

旧バージョンの xGate からのデータ移行を行う際には、インストールの前にデータの退避を行っておいてください。ここでは、旧バージョンの xGate のファイルを /usr/local/tomcat/webapps/xgate.old/ に退避してあることを仮定します。

旧バージョンの退避の例)

```
# mv /usr/local/tomcat/webapps/xgate/ /usr/local/tomcat/webapps/xgate.old
```

移行できるデータ

- 設定情報 (WEB-INF/conf/ 以下のファイル)
- アカウント情報 (WEB-INF/account/ 以下のファイル)
- 個人アドレス帳 (WEB-INF/address/ 以下のファイル)

情報のコピーの例)

```
# cd /usr/local/tomcat/webapps/  
# cp xgate.old/WEB-INF/conf/xgate.conf xgate/WEB-INF/conf/ ... (1)  
# cp xgate.old/WEB-INF/conf/log.conf xgate/WEB-INF/conf/ ... (1)  
# cp xgate.old/WEB-INF/conf/*.dic xgate/WEB-INF/conf/ ... (1)  
# cp xgate.old/WEB-INF/account/* xgate/WEB-INF/account/ ... (2)  
# cp -r xgate.old/WEB-INF/address/* xgate/WEB-INF/address/ ... (3)
```

(1) 設定情報のコピー

今まで使用していた設定情報が保存されているファイルを全て、新しくインストールした xGate のディレクトリにコピーします。

(2) アカウント情報のコピー

今まで使用していたアカウント情報が保存されているファイルを、新しくインストールした xGate のディレクトリにコピーします。この作業は、アカウント情報の格納先に LDAP を利用している場合には、不要です。

(3) 個人アドレス帳のコピー

今まで使用していた個人アドレス帳が保存されているファイルを、新しくインストールした xGate のディレクトリにコピーします。各アカウント毎にディレクトリが作成されているので、ディレクトリ階層を含めたコピーが必要なことに注意してください。この作業は、個人アドレス帳の格納先に LDAP を利用している場合には、不要です。

4.2. xGate Ver.2.X または 3.1/3.2 パッケージからのアカウントデータの移行

xGate Ver. 3.2 (PL1 含む) 以前のバージョンと比較して動作環境自体が変更になったため、旧バージョンで使用していたアカウントデータの移行はファイルコピーなどを手動で行う必要があります。ただし、移行が行えるのは、xGate Ver. 2.X または 3.X からで、それより前のバージョン(1.X)からの移行は対応していません。

xGate 旧バージョンからのアカウントデータの移行は、下記の点に注意して行ってください。

「xGate Ver. 3.5/3.7 インストールガイド」、「xGate Ver. 3.5/3.7 ConfigSetup ガイド」に従って xGate のインストールと設定を行ってください。

移行できるデータ

- アカウント情報
- 個人アドレス帳

(1) LDAP オプション機能を利用している場合

「アカウント情報」「個人アドレス帳」を LDAP を用いて管理している場合には、LDAP の設定を同様に設定する事で、旧バージョンのデータをそのまま利用する事ができます。

(2) LDAP オプション機能を利用していない場合

旧バージョンの xGate が /usr/local/xGate/ に、xGate Ver. 3.5/3.7 が /usr/local/tomcat/webapps/xgate/ にインストールされているとします。

・「アカウント情報」の移行

旧バージョンのアカウント情報ファイル(/usr/local/xGate/account/account.dat)を、新バージョンのアカウント情報ファイル(/usr/local/tomcat/webapps/xgate/WEB-INF/account/account.dat)に上書きしてください。

・「個人アドレス帳」の移行

旧バージョンの個人アドレス帳ファイル(/usr/local/xGate/address/* : アカウント毎に個別のファイルです)を、新バージョンの個人アドレス帳が格納されているディレクトリ(/usr/local/tomcat/webapps/xgate/WEB-INF/address/)にコピーしてください。

5. パスワード暗号化方式変更に関する注意

xGate は、メールアカウントのパスワードをキーコードで暗号化し、ローカルファイルもしくは LDAP DB 内に保管しています。

このパスワード暗号化の仕組みにおいて、セキュリティ上の問題が発見されたため、xGate Ver. 2.0 PL2 で暗号化方式を変更致しました(以後、変更後の暗号化方式を「新暗号化方式」、変更前の暗号化方式を「旧暗号化方式」として説明致します)。

xGate Ver. 2.0 PL1 以前のバージョンをご利用のお客様は、xGate Ver. 2.0 PL2 以降のバージョンにアップグレードした上で、以下のいずれかの方法で旧暗号化方式から新暗号化方式に移行をして頂くようお願い致します。

尚、xGate Ver. 2.0 PL2 以降のバージョンを新規インストールした場合は、自動的に新暗号化方式が採用されます。

5.1. 全面的な変更

新たにインストールしたデフォルトの状態では、全登録ユーザー、強制的にパスワードを新暗号化方式に変更して頂くことになります。

(1) 携帯電話からログイン

登録されているパスワードが旧暗号化方式の場合、パスワード、キーコードの再登録が要求され、入力したパスワード、キーコード が新暗号化方式で登録されます。

(2) アカウント管理ツールからログイン

変更されたパスワード、キーコードは新暗号化方式で登録されます。

予め、アカウント管理ツールでパスワードを新暗号化方式に登録し直しておけば、「携帯電話からログイン」の際、パスワード、キーコードの再登録は要求されません。

5.2. 段階的な変更

新たにインストールした後、「環境設定」ツールの「詳細設定」－「共通設定」の「xGate V2.0 PL1 以前のキーコード暗号化方式を使用する」を設定した場合、旧暗号化方式でのログインも許可されるため、段階的な新暗号化方式への移行が可能になります。

(1) 携帯電話からログイン

登録されているパスワードが旧暗号化方式の場合でも新暗号化パスワード方式でも、どちらでもログインが可能です。

(2) アカウント管理ツールからログイン

パスワード、キーコードを変更すると新暗号化方式で登録されます。

以後、携帯からは新暗号化方式でログインすることになります。

6. 「端末種別の値の変更」に関する注意

6.1. 不具合内容

xGate Ver. 3.1 および Ver. 3.2 の端末種別の値の仕様が下記のように変更され、旧バージョン(Ver. 1.X と Ver. 2.X)との互換性がとれなくなっています。

■ Ver. 1.X の端末種別の値

- 0: au, TU-KA WAP
- 1: DoComo i モード
- 2: J-Phone J-スカイ

■ Ver. 2.X の端末種別の値

- 0: au, TU-KA WAP
- 1: DoCoMo i モード
- 2: J-Phone J-スカイ
- 3: ASTEL ドット i
- 4: Palm
- 5: WAP2.0 (au)
- 6: etc.

■ Ver. 3.1 および Ver. 3.2 の端末種別の値

- 1: au, TU-KA WAP
- 2: DoCoMo i モード
- 3: J-Phone J-スカイ
- 4: ASTEL ドット i
- 5: Palm, PDA
- 6: WAP2.0 (au)
- 7: PC

6.2. 不具合によるユーザーへの影響

xGate Ver. 1.X もしくは Ver. 2.X から Ver. 3.1 もしくは Ver. 3.2 にアップグレードされた場合、登録済みのアカウントの端末種別が登録した時点と異なる端末になってしまいます。その結果、URL を再通知した際、その URL で xGate ログイン画面にアクセスできなくなる可能性があります(URL を再通知しなければ、使用上の支障はございません)。

6.3. 対応内容

xGate Ver. 3.2 PL1 にて、端末種別の値を旧バージョンの値に戻しました。

■ Ver. 3.2 PL1 以後の端末種別の値

0: au, TU-KA WAP

1: DoCoMo i モード

2: J-Phone J-スカイ

3: ASTEL ドット i

4: Palm, PDA

5: WAP2.0 (au)

6: PC

6.4. アップグレードの際の注意点

今、ご利用のバージョンをご確認の上、下記の対応をして頂くようお願い致します。

- (1) Ver.2.X を新規導入され、そのままご利用になられている場合

xGate Ver. 3.5.2PL7/3.7PL4 へのデータ移行を行った際、なんの変更もなく、そのままご利用頂けます。

- (2) Ver.3.1、Ver.3.2 を新規導入され、そのままご利用になられている場合

xGate Ver. 3.5.2PL7/3.7PL4 へのデータ移行を行った際、当初登録した端末種別と異なるものが表示されます。

お手数ですが、正しい端末に再設定して頂くようお願い致します。

- (3) Ver.1.X、Ver.2.X から Ver.3.1 または Ver.3.2 にアップグレードされている場合

xGate Ver. 3.5.2PL7/3.7PL4 へのデータ移行を行った際、V3.1 または V3.2 にアップグレード後に登録・更新したアカウントの端末種別と異なるものが表示されます。
お手数ですが、正しい端末に再設定して頂くようお願い致します。

- (4) Ver.3.2 PL1 以後のバージョンを新規導入されている場合、または Ver.3.2 PL1 以後のバージョンにアップグレードされている場合

xGate Ver. 3.5.2PL7/3.7PL4 へのデータ移行を行った際、なんの変更もなく、そのままご利用頂けます。

7. ログ出力

7.1. ログの出力先

「ファイルに記録」を選択した場合、ログファイル名で指定したファイルにログが出力されます。

「コンソールに出力」を選択した場合、通常は Tomcat の catalina.out ファイルにロ

グが出力されます。

7.2. ログのローテーション

「ファイルに記録」で作成されたログファイルは自動的に日次でローテーションされますが、古いログファイルの削除は行われません。ログファイルの削除を行う場合は、OS コマンドによる削除が必要となります。

8. WILLCOM 端末への対応

8.1. 3.5.2PL5/3.7PL2 以前のバージョンからのアップデート時の注意

3.5.2PL6/3.7PL3 より、端末種別に WILLCOM が追加されました。3.5.2PL5/3.7PL2 以前のバージョンからのアップデートの場合、移行したアカウント情報では WILLCOM 端末の使用が許可されていませんので、そのままでは WILLCOM 端末での利用ができません。WILLCOM 端末の使用を許可するには、アカウント情報の更新を行ってください。

新規に作成したアカウントについては、WILLCOM 端末を含む全種類の端末の使用が許可されます。

9. 使用上の制限

9.1. 端末認証

端末認証を使用するには、携帯端末側が固有の ID を発行する機能を持っている必要があります。xGate の対応携帯端末の中で、今現在、このような ID を持つ携帯端末およびそのサービスは、

- (1) KDDI (au) の EZweb (EZ 番号)
- (2) NTT DoCoMo の i モード 506i・505i・504i・503i・253i・252i・213i・212i・211i・FOMA シリーズ (11/15 桁の製造番号)
- (3) SoftBank の Yahoo!ケータイ (製造番号)

となります。

デフォルトのシステム設定値は、端末認証を行う設定になっていません。端末認証を行う場合、環境設定の「セキュリティ設定」－「端末認証設定」で設定値を変更してください。

i モードのデュアルネットワークサービスを使用している場合には、FOMA/mova のそれぞれの端末ごとに異なる製造番号が通知されます。一台の端末で FOMA/mova を切り替えられる場合でも、異なる製造番号が通知されます。この場合、(ライセンスを消

費しますが)FOMA/mova それぞれ別のアカウントを作成してください。

i モードの場合には、ログイン時に端末情報の送信の許可を確認するメッセージが表示されます。このときに、「端末情報の送信を許可しない」を選択した場合には、端末認証によるログインは行う事ができません。EZweb/Yahoo!ケータイ の場合には、あらかじめ端末の設定により EZ 番号/ユーザ ID を「通知する」ように設定しておく必要があります。端末情報が通知されない場合は、端末認証によるログインは行う事ができません。

9.2. SSL 暗号化

xGate の Web サーバに SSL を導入した場合、各携帯端末は、下記の区間での暗号化が行われます。

- (1) NTT DoCoMo i モード 506i・505i・504i・503i・253i・252i・213i・212i・211i ・FOMA シリーズ

携帯端末から xGate 間での暗号化が行われます。

サーバ証明書が、ベリサインかボルチモアでない場合、「このサイトは安全でない可能性があります 接続しますか?」と確認されます。

- (2) NTT DoCoMo i モード 506i・505i・504i・503i・253i・252i・213i・212i・211i ・FOMA シリーズ 以外

キャリアゲートウェイから xGate 間での暗号化が行われます。

- (3) KDDI(au) EZweb

携帯端末から xGate 間での暗号化が行われます。

サーバ証明書が、キャリアでサポートされていないものの場合、接続に失敗します。

- (4) SoftBank Yahoo!ケータイ

携帯端末から xGate 間での暗号化が行われます。

- (5) Palm Palmscape

Palmscape は SSL に対応していません。

- (6) Palm Xiino

Palm から xGate 間での暗号化が行われます。

- (7) PocketPC/Windows Mobile

PocketPC/Windows Mobile から xGate 間での暗号化が行われます。

- (8) PC

PC から xGate 間での暗号化が行われます。

9.3. 画像添付ファイル

表示可能な画像添付ファイルのフォーマットおよびサイズは、端末によって異なります。

- (1) EZweb : BMP(1050 バイト)、PNG(8000 バイト)

- | | | |
|-----|------------------------|-------------------------------|
| (2) | i モード : | GIF (1023 バイト) |
| (3) | Yahoo!ケータイ : | PNG (6000 バイト) |
| (4) | ステーション対応の Yahoo!ケータイ : | PNG (6000 バイト)、JPG (6000 バイト) |
| (5) | Palm : | 上記のファイル全て (9999 バイト) |

9.4. POP/APOP メールサーバ

メールサーバとして POP/APOP を使用される場合、以下の制限があります。

- (1) IMAP でご利用頂ける以下の端末操作は、POP/APOP では実装されていません。
 - ・ 未読／既読の表示
 - ・ メールボックスの選択
 - ・ コピー
 - ・ 移動
 - ・ 未読に戻す
 - ・ メールの検索
 - ・ フィルタリング
 - ・ 迷惑メールフィルタ
 - ・ 着信通知
 - ・ Outbox への保存
- (2) POP サーバは、拡張コマンド TOP、UIDL のサポートが前提となります。
- (3) メール本文、添付ファイルの途中で 5000 行を超えた場合
 - ・ メール本文の途中の場合、それ以降の行は表示されません。
 - ・ 添付ファイルの途中の場合、そのパートは表示されません。

9.5. オフィス文書表示

オフィス文書表示オプションで、以下の制限があります。

- (1) DOC・XLS・PPT・PDF ファイルにおいて、ファイルの保存形式などによっては、同じテキストが複数回表示されたり、「表示できません」と画面に表示される場合があります。
- (2) 校閲機能の修正前の情報や非表示にしているページ(シート)などが、表示される場合があります。

9.6. HTML メールの二重表示

受信したメールが、Content-Type: Multipart/Alternative の形式だった場合、同じ内容のメッセージが二重に表示されているように見えることがあります。これは、text/plain の形式で記述された部分と text/html で記述された部分の両方を xGate が表示するためです。

9.7. 「本文にコピー」でのメール転送(携帯電話端末)

仕様として添付ファイルは転送されません。HTML メールや MIME でカプセル化された転送メールなどは、xGate で表示を行うことはできますが、実際のメールの形式は添

付ファイルと同様に扱われるため、これらも転送対象とはなりません。

9.8. PC(Web メール)

- ・ 対応 Web ブラウザ

Microsoft Internet Explorer Version 6 以後/Mozilla Firefox/Safari (MacOS X) に対応しています。

9.9. PocketPC

- ・ 「戻る」ボタンの使用制限

ブラウザの「戻る」ボタンで前画面に戻ろうとすると、「コマンドに誤りがあります」というエラーが発生することがあります。これはブラウザのキャッシュの仕様による問題です。xGate では「戻る」ボタンを使わずに利用できるよう設計されています。「戻る」ボタンは利用しないでください。

9.10. ライセンスコードの制限

- ・ 評価版ライセンスコードの制限

デフォルトで設定されている評価用ライセンスに使用期日 30 日の制限がつけました。